会報紙　あんしん地域見守りネット　ニュースレター「第4号」

謹賀新年

地域活動を育む

かけはし

発行：一般社団法人 あんしん地域見守りネット

編　集：地域連携チーム（代表 谷口 起代）
編集長：倉田 久
レイアウト：斎藤 正史

事務局：地域活性化センター松戸（運営：NPO法人 CoCoT）
〒271-0073 松戸市小根本 42-3 アセット松戸Ⅱ 401
TEL. 047-711-7445　FAX. 047-369-7445

～一般社団法人 ＹＳ市庭コミュニティー財団助成事業～
協賛：（公財）ニッセイ聖隷健康福祉財団

見守りがあたりまえになる社会へ

「豊かな高齢社会システムづくり」

ＮＰＯ法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク
代表理事　小山 淳子

「誰にも気づかれず、人が孤独に亡くなるような町にしていけない」「自分たちの町は自分たちで創ろう」。

自動応答電話を活用した地域見守り活動は、自治会長の方々の熱い思いから始まった。これからの高齢社会で、若い世代の負担を最小限に、人とつながり続けていくためにどんな仕組みが必要か、議論を重ねた。

個人対コミュニティの関係（セーフティネット）を創り出すという理念

一般に民間の見守りサービスや警備会社の緊急通報装置は、遠方の家族に異常をメールなどで知らせることができるが、日々の見守りや対処は個人と家族の中で完結する。つまり、自助だ。個人間で完結させることなく地域を巻き込む互助や公助の分野に取り込もうとしたのが、自動応答電話による地域見守り活動である。

ＩＴを活用した安否確認の仕組みを使って、孤立しがちな個人を地域とつなげていく仕掛けを創ろうとしたのだ。見守りを個人対個人の関係から個人対コミュニティの関係へ移行させようとしたのだ。ケアする側対ケアを受ける側の関係や心配する個人と心配される個人の関係は二者の関係だ。あんしんネットが目指したものは、町に暮らす人と受け止める地域の関係にする仕組みである。しかも、ＩＴツールを活用することで、労力は最小限に、手軽にみんなで取り組める仕組みを理想とした。

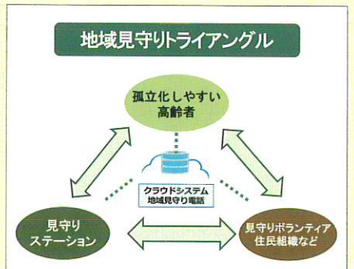
地域見守り活動は、地域医療モデルの見守りと共存するが同質ではない。

あんしん電話事業の発端は、医療・介護関係者が地域と連携して高齢者の健康をささえていくことを目指す地域医療だった。

やがて、自治会活動による見守りが育っていく中で、個人の健康を支える視点は、コミュニティの力を高める活動に移行し、現在の地域福祉・生活モデルが出来上がった。地域医療モデルの主軸は「医療介護の専門家による確認」にあるが、地域福祉・生活モデルの主軸は、「日頃からの生活圏での関係づくり（親密圏の構築）」にある。

「見守り電話の応答を専門家が確認後、その指示により、住民が動く」というものと、「日頃からの関係により、見守り電話の応答をきっかけに、住民が動く」というものでは、主体性のあり方が違う。「地域医療モデル」から「地域福祉・生活モデル」への移行を、見守り活動の動きに着目して言い換えると、「専門家の指示による見守り活動」から、「地域住民の経験的な判断による見守り活動」へと移っていったということだ。

情報共有を軸とした「地域見守りトライアングル」の完成



クラウド型地域見守り電話「げんきです」の仕組み

２０２０年クラウド型見守りシステムの基本が完成した。新システムは、オンラインによる安否確認で、パソコンやスマートフォンでインターネットにアクセスすれば、誰でも場所や時間の制限なく、見守るべき高齢者の状況を確認できる。特定の専門機関が掌握していたシステムや情報が公開され、住民の手に移される可能性が出てきたのである。これは、住民主体の見守り活動を大きく前進させるはずである。

残された課題は、松戸から生まれた先進的なシステムと仕組みをいかに継続して社会インフラとして定着させるかということである。自治会活動から生まれた地域見守り活動が、高齢社会の、地域活動の「あたりまえ」になるには、次の一手は何か、知恵を出す時だ。

ほっとラインNOW

11月、新松戸居宅支援事業「あおばケアプランサービス」のケアマネージャー石川さんから、自分たちに代わって利用者さん達の見守りをしてくれるところをネットで検索している中で「あんしん電話」に辿りついたと電話をもらいました。早速、パンフレットを持参し説明に行くと「以前から知ってはいたけど手続きが面倒だと思っていた」「シンプルで分かりやすいですね」「他の職員とも共有したい」と嬉しい感想をいただきました。

ＳＮＳの時代に正しい情報をより的確に多くの方の目に留まるように発信していくことの重要さを痛感しました。

若いケアマネージャー石川さんの利用者様を想う気持ちがこのようなめぐり合わせに繋がったことに感謝し「あんしん電話」を通して今後も地域のかけはしになって行きたいと思います。

あおばケアプランサービス
石川さん

国土交通省住宅セーフティネット機能強化推進事業

アパートが見つからない。
生活が不安。
一人暮らしだ。

日々の暮らしの相談窓口

居住支援相談/あんしん電話の申し込み
あんしんほっとライン
0120-386-117
月～金　10:00～16:00

あねっトピックス

第５回通常総会報告

一般社団法人
あんしん地域見守りネット
代表理事　川瀬 裕思

２０２０年度（２０２０年４月～２０２１年３月）における事業活動報告と２０２１年度の事業活動計画を会員の皆様に審議いただくために、第５回通常総会を２０２１年６月26日に開催しました。

（※２０２１年６月現在の正会員数は、団体会員11団体／個人会員22名です）

コロナ感染拡大防止のためにオンラインと書面表決での開催となり、日頃よりご支援をいただいている会員の皆様に直接お会いすることが出来ずに残念ではありましたが、皆様から続々と届く書面表決書を見ながら、１年以上も続くコロナ禍で変わらずにご支援いただけることに感謝するとともに、この困難な状況下でも引き続き見守り活動を続ける事の大切さを再認識しました。

総会では、あんしん地域見守りネットが取り組む６つの柱「松戸であんしん見守り活動を定着させる活動」「あんしん見守り活動を広げていく活動」「地域見守り活動の担い手育成」「相談窓口事業」「ニュースレター発行事業」「組織運営」について、２０２０年度の活動状況報告及び２０２１年度の活動計画と収支を説明、承認をいただきました。

全ての議案を承認いただいた後に、オンラインでご参加いただいた方々には、各地域での活動状況や課題について、意見交換をさせていただきました。

コロナの影響がなくなり、総会や交流会で皆様とお会い出来る日が来ることが、待ち遠しい限りです。

オンラインで意見交換会の様子

編集後記

分断、格差、孤独、貧困・・・昨年を振り返るとこんな言葉があふれていました。一年の大半を緊急事態、まん延防止措置の中で過ごし、社会の不安、不満の高まりを強く感じました。そうした状況下においても、取材や寄稿から、見守り、寄り添い、支援を継続しようという個人や組織の活動と意思を知ることができました。ぜひ今年は、共感、平等、連帯、充足などのフレーズが少しでも増えますように。一年間のご愛読ありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。

会員募集のご案内

「(一社) あんしん地域見守りネット」の目的に賛同していただける方、活動に参加していただける方、応援していただける方、お待ちしています。

正会員（団体）5,000 円（1口以上）/ 年
正会員（個人）2,000 円（1口以上）/ 年

振込口座：　千葉銀行松戸支店（普）4277609
口座名義：一般社団法人あんしん地域見守りネット

@anshindenwa「あんしん電話」
E-mail: info@genkiosiete.com
http://anshind.kaiteki-it.or.jp/

コロナ感染第5波が収まった昨年9月末で緊急事態宣言解除、そして10月25日からは飲食店やイベントなどに課されていた要請も緩和されました。

しかし、第6波到来の懸念もあり、日常生活が従来の落ち着きを取り戻すには、まだ時間がかかりそうです。

ウィズ・コロナを見据えながらの地域活動の取り組みを紹介します。

コロナ禍の訪問看護

元気介護支援サービス　村上　美恵子

私は看護師として約20年、福祉業界で約22年携わってきました。そしてこんなにも強く長く世界を震撼させた感染症は初めての経験です。

訪問看護では、訪問宅でご本人が発熱しており、コロナ感染の疑いもあり、常備の防護具を身につけて対応しなければならない事も多々あるという状況に遭遇しました。しかしさらに心配なことは、発熱前3日の間も感染力があるという現実で、利用者様にPCR検査を依頼し、結果が分かるまでそのスタッフを自宅待機にして、他の多くの利用者様やスタッフへの感染防止をしなければならなかった事も負担となりました。

デイサービスでは、感染予防対策で社屋全体をグラスコーティング処置と毎日のアルコール消毒（送迎車、テーブル、手すり、機能訓練の器具、常に使うレクレーションの備品等）とスタッフの体温測定、マスクは勿論ですが、状況に応じてフェースシールドを着用し利用者様に対しては、通所前に体温測定とマスク着用、施設到着時には入り口で手の消毒と手洗いとうがいを励行したバイタル測定を行いました。

施設内のイベントや行事のカラオケ、ゲーム、ボランティアのプログラムなどは中止、長期間楽しみの少ないデイとなっていました。

昨年10月末には感染者も減少し緊急事態宣言が解除になり、やっと一息つけそうな状況になってきましたが、他国では感染が再燃しており、日本も第6波が来るのではとの懸念もあります。

訪問看護ではその時に備えて自宅療養者への健康チェック、点滴訪問の有無の問い合わせが有りますが、ステーションとしては看護師の使命として、依頼があれば出動するつもりでいます。

私達は独居の方、老老介護の方をお世話させて頂いていますので、職務をやめる事はありません。私達は感染予防をし、携わっていきますが早く治療薬ができる事を願っています。

ゆるやかなつながりづくり

NPO法人さんま　石川　靜枝

今回いくつかご紹介したい取り組みがあります。

先ず新しくオープンした「さんまのいえ」について。本町地区で開催しているさんま広場・さんま食堂はコロナ禍でお弁当配布が主流となっていますが、この度松戸市古ケ崎に小さな「さんまのいえ」を借り、ミニこども食堂、居場所などを展開しています。

毎週火曜日居場所として開催（10時～15時）、第三火曜日15時～18時まではミニさんま食堂。メニューはカレーのみ、先着20名ぐらい。昼間は親子や地域の方々、放課後は子どもの居場所として。まだまだ始まったばかりですが少しずつ利用する方も増えてきています。特に決められたことはなく、スタッフとお話したり、手作業したり…そんなことをしながら過ごせる場です。一番の目的は何もなくても寄れる場です。

何かしなくちゃいけないとかではなく、ふらっと寄れる場…そんな場にしていきたいと思います。

コロナ禍から始まったひとり親ファミリー応援DAYのお弁当配布。

特にお一人で子育てされている家庭へ食材、無料のお弁当の提供を月一回しています。食材などは必要に応じて対応しています。

いろいろな背景の家庭があり、その中で子どもたちは成長していきます。ただただ、その成長に地域にいる私たちが少しでも手助けできればという思いです。

子どもの貧困などよく耳にしますが、貧困だけが問題ではなく、本当に生活に手が足りない家庭もあります。

月一度のお弁当が助かるの?という声も聞かれますが、この一度のお弁当の時間は「子どもと一緒に食べられる」「おいしいね」って会話ができるというメッセージも頂きます。何気ない日常の様子かもしれませんが、子どもにとっても親にとっても大切な時間です。

こういう時間の積み重ねが子どもたちの心の安心感につながっていきます。

「利用者のために行かなくては」

ニッセイヘルパーステーション

ニッセイヘルパーステーションは（公財）ニッセイ聖隷健康福祉財団が運営する訪問介護事業所（松戸市高塚新田）で、正社員6名、パートタイマー13名で活動しています。

エリアは松戸市、市川市で現在約100名の利用者へ身体介護、家事援助、障害者支援のほか受診付添などの生活支援も行っています。コロナ禍のもと利用者、ヘルパー双方に不安が大きくなりましたが、「利用者のために行かなければ」との強い思いに支えられ活動を継続。担当者が安心して介護に臨める事業所のバックアップ体制、感染防止（マスク、ゴーグル、防護服等）に努めながら、感染懸念のある利用者に対しても完全防護体制で訪問を継続しました。

ヘルパーステーション職員

日常の業務に加えワクチン予約の代行や接種への付き添いなども対応しました。不安、苦労も多い反面、感染拡大期にも訪問を継続したことで、利用者、ご家族のほかケアマネなど担当機関からも感謝の言葉をいただき、大きな励みとなり、また利用者との信頼関係も強まりました。感染状況は予断を許しませんが、これまでの経験を活かしつつ引き続き感染防止に努めながら、利用者サービスに取り組んでまいります。

こーひーぶれいく

「笑う門には福来る」の格言もありますが、「笑い」には様々な効用があるそうです。笑うことで、リラックスでき、免疫力も高まり、ストレス軽減、認知症予防の効果も指摘されています。「笑いヨガ」の活動を行っている団体もありますね。

（公社）全国有料老人ホーム協会・ポプラ社編集の「シルバー川柳」に収められている珠玉の作品からは、老いの不安やコロナ禍を笑い飛ばす、高齢者のパワーが感じられます。

メルカリで　売って買っちゃう　孫のもの

薄味に　したらコロナと　わめく祖父

リード持ち　散歩に出たが　大忘れ

食卓に　俺の席だけ　アクリル板

午後八時　酒提供を　止める妻

当節の　敬老会は　オンライン

（「シルバー川柳」　ポプラ社より）

地域見守り活動の歩み（第4回）

「野菊野団地自治会」の取組

～近隣の町会・自治会と一緒になって～

野菊野団地自治会　斎藤　正史

2013年2月に「島村トータルケア・クリニック」が「あんしん電話」のシステムを導入し近隣の「みなづき町会」「胡録台南自治会」と「野菊野団地自治会」が運用に参加することになった。

運用当初のリーフレット

同時に私たちとクリニックの4者で「野菊野あんしん電話運営協議会」を立ち上げ、定期的に会議を開催し地域情報の共有、見守りの対応などを話し合える場を持つことができるようになった。団地内の「さわらび福祉会」「ようこ歯科クリニック」「丸山内科医院」と地域の医療・介護機関の協力も得られて「あんしん電話」は少しずつ知られはじめて来ました。

運営協議会では、あんしん電話利用者の皆さんとの懇親と新たな利用者を募る目的で、2016年には「明第1地域包括支援センター」の協力を得て、身近なテーマの医療・介護の講演とピアノ演奏、タップダンスやゲーム等様々なアイデアを盛り込んだイベント「元気フォーラム」を団地内の福祉施設「エルダー野菊野」のホールをお借りして開催し、多くの参加者に楽しんでもらえた。

ピアノ演奏

屋外看板

医療講演

やがて「あネット」も主催参加をして不定期ながら継続開催をして行けるようになり、近隣の町会・自治会地区会メンバーの「旭ケ丘町会」「胡録台高見自治会」「松戸新田第五町会」も参画して6町会・自治会主催「元気フォーラム」としてより多くの参加者を迎えられる事ができました。

野菊野団地の「あんしん電話」加入者だけでも徐々に増えて60名程になり、この様な活動が周知につながった結果だと思っています。

2020年に第5回元気フォーラムを企画しましたが、コロナ禍で中止になり今に至っていますが、これからも「あんしん電話」を通じて『見守られる』と『見守る』を続ける事ができる地域コミニティでありたいと願っています。